

学級通信記事における教師メッセージの研究 (Ⅱ)

荻間澤 勇人* 大河原 清**

(1999年1月7日受理)

Hayato KARIMAZAWA, Kiyoshi OOKAWARA

A Study of A Teacher's Messages in the Classroom News-letter (Ⅱ)

要 約

学級通信の教師と生徒の関係づくり機能を高めるために、効果的な教師メッセージの表現について検討した。「わたしメッセージ」と「あなたメッセージ」の2種類のメッセージで表現された学級通信を作成した。はじめに「わたしメッセージ」の学級通信を、次に「あなたメッセージ」の学級通信を提示して、それらの学級通信を読んだ後に、生徒に生起する感情を調べる実験を行った。「あなたメッセージ」の学級通信の方が「わたしメッセージ」の学級通信よりも、非難されている、コントロールされている、急かされている、責任を転嫁させられている、という感情を生徒に引き起こしていた。「わたしメッセージ」で表現された学級通信は生徒に受け入れやすい学級通信であり、学級通信記事における教師メッセージとして「わたしメッセージ」が効果的であると判断した。

また、先行研究との比較を行った。メッセージの提示順序の変化による印象の違いから、普段の教師メッセージが「あなたメッセージ」に近いと考えられることと、その状況下で「わたしメッセージ」が効果的な教師メッセージであると考えられることを指摘した。

キーワード 学級通信 教師学 わたしメッセージ あなたメッセージ

1 問題と目的

教師にとって、学級通信は生徒や保護者と心をつなぐための手段となっている(荻間澤1996)。ところが、荻間澤・大河原・佐々木(1996)の調査では、学級通信において、生

*岩手県立盛岡商業高等学校

**岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター

徒に反発、抵抗感、怒り、罪悪感、恥などの感情を生起させ、自尊心を傷つけ、自己肯定感を失わせやすいメッセージが使われていることが指摘されている。荻間澤 (1997) は、学級通信の教師と生徒の関係づくり機能を高めるために、教師メッセージの表現に着目した研究を行っている。具体的には、「あなたメッセージ」と「わたしメッセージ」の2種類のメッセージで表現された学級通信を提示して、それらの学級通信を読んだ後に、生徒に生起する感情を調べる実験である。その結果、「あなたメッセージ」の学級通信の方が「わたしメッセージ」の学級通信よりも、非難されている、コントロールされている、急かされている、責任を転嫁させられている、という感情を生徒に引き起こしていることが明らかになっている。つまり、「わたしメッセージ」で表現された学級通信が生徒に受け入れやすい学級通信である。ここでいう「わたしメッセージ」と「あなたメッセージ」の分類は、T. ゴードン (1985) と近藤 (1993) の『教師学』によるものである。

しかし、荻間澤 (1997) の実験では「あなたメッセージ」の学級通信を先に提示し、続いて「わたしメッセージ」の学級通信を提示する方が、「わたしメッセージ」の効果が強くでることが示唆された。このため、本研究では、提示順序を逆にして、はじめに「わたしメッセージ」の学級通信を、次に「あなたメッセージ」の学級通信を提示することで、生徒に生起する感情を明らかにする。

本研究の目的は2つある。1つは、2種類のメッセージで表現された学級通信の提示順序が変わっても、「わたしメッセージ」の学級通信が教師と生徒の関係づくりに効果的な学級通信であることを示すことである。2つは、提示順序の変化による印象の違いを調べることである。

2 実 験

2-1 実験の目的

実験の目的は、はじめに「わたしメッセージ」の学級通信を、次に「あなたメッセージ」の学級通信を提示するという順序によって、2種類のメッセージで表現された学級通信を読んだ後に、生徒に生起する感情を明らかにすることである。

2-2 被験者および実験日

被験者は岩手県立盛岡商業高等学校2・3年生 (男子51名、女子68名、計119名) である。実験日は1998年1月20日である。

2-3 学級通信Cと学級通信D

同一内容を2種類のメッセージで表現した学級通信を作成した。1つは「わたしメッセージ」を主とするものである (以下、学級通信Cという (資料1に示す))。2つは「あなたメッセージ」を主とするものである (以下、学級通信Dという (資料2に示す))。学級通信Cと学級通信Dは、荻間澤 (1997) の学級通信Bと学級通信Aを、実験日に考慮して修正を加えたものである。なお、学級通信Aは1991年4月から1994年3月まで筆者が発行したものであり、主として「あなたメッセージ」で表現されていると判断されている。学級通信Bは学級通信Aを基に意図的に「わたしメッセージ」の表現に変えたものである。

2-4 質問紙

実験では、学級通信Cと学級通信Dのメッセージの伝達内容が同一であり、メッセージ表現が異なっている、と生徒が判断することが前提になる。そのために質問紙1（以下に質問項目を列挙するので添付しない）では、主としてメッセージの伝達内容の一致度と作成者の不一致度を調べる。質問紙1の質問項目は「学級通信の伝えたい内容は同じだと思いますか」、「学級通信の作成者は同一人物だと思いますか」、「学級通信のどちらが好きですか」、「学級通信の異なると思った点を教えてください」であり、学級通信Cと学級通信Dを比較して回答するものである。質問紙2（質問項目を結果で示す。図1、図2、図3のとおり）は学級通信を読んだ後に生徒に生起する感情を5段階の評定尺度で回答するものであり、荻間澤（1997）の質問紙と同一のものである。

2-5 手続き

冒頭で被験者に「これからアンケートを実施します。先生の今後の勉強に役立てるためのものです。ご協力ください。具体的には、2種類の学級通信を読んだ感想を教えてください」と実験の協力依頼を口頭で行った。次に学級通信Cと質問紙2（学級通信C用）を配布して、学級通信Cを読んで質問紙2（学級通信C用）に回答するように指示した。回答終了の確認後に回収した。続いて学級通信Dと質問紙2（学級通信D用）についても同様の手順で行った。最後に質問紙1を配布して回答するように指示した。回答終了の確認後に回収した。調査時間は、調査の準備・説明に5分、学級通信Cと学級通信Dを読んで質問紙2に回答するのにそれぞれ10分、質問紙1の回答に10分、アンケート終了後の説明に15分であった。

実施前に被験者に対してアンケートの目的を詳細に説明することはしなかった。その理由はメッセージを伝える際にメッセージとともに伝わる人間関係や送り手の考え方によって、受け手に生起する感情を調査することを目的としているために、アンケートの目的を伝えることで結果に影響が現れると判断したからである。なお、終了後にアンケートの目的を詳細に説明した。

3 結 果

3-1 メッセージの伝達内容の一致度

質問紙1の「学級通信の伝えたい内容は同じだと思いますか」という質問に対する回答結果は表1の通りである。「全く同一の内容である」と「同一の内容である」、「同一の内容ではない」と「全く異なる内容である」をそれぞれ1つにまとめて行った χ^2 検定の結果 ($\chi^2(2)=39.597$, $P<.01$), 人数分布に偏りがある。つまり、生徒が2種類の学級通信の内容が同一であると考えていることから、学級通信Cと学級通信Dはメッセージの伝達内容が一致していると判断する。

表1 学級通信Cと学級通信Dのメッセージの伝達内容の一致度

項 目 (評定尺度値)	人数 (人)
全く同一の内容である (5)	8 (6.7%)
同一の内容である (4)	63 (52.9%)
同一とも異なるともいえない (3)	31 (26.1%)
同一の内容ではない (2)	16 (13.4%)
全く異なる内容である (1)	1 (0.8%)
評定尺度値の平均値 (3.5)	119 (100%)

3-2 学級通信の作成者の不一致度

質問紙1の「学級通信の作成者は同一人物だと思いますか」という質問に対する回答結果は表2の通りである。「全く同一の作成者である」と「同一の作成者である」、「同一の作成者ではない」と「全く異なる作成者である」をそれぞれ1つにまとめて行った χ^2 検定の結果($\chi^2(2) = 13.832, p < .01$), 人数分布に偏りがある。つまり、生徒が2種類の学級通信の作成者が異なると考えていることから、メッセージ表現が大きく異なっていると判断する。

表2 学級通信Cと学級通信D作成者の不一致度

項目 (評定尺度値)	人数 (人)
全く同一の作成者である (5)	11 (9.2%)
同一の作成者である (4)	27 (22.7%)
同一とも異なるともいえない (3)	24 (20.2%)
同一の作成者ではない (2)	34 (28.6%)
全く異なる作成者である (1)	23 (19.3%)
評定尺度値の平均値 (2.8)	119 (100%)

3-3 好みの学級通信

質問紙1の「学級通信のどちらが好きですか」という質問に対する回答結果は、学級通信C(わたしメッセージ)の方が好きと回答した生徒が90人(75.6%)で、学級通信D(あなたメッセージ)の方が好きと回答した生徒が29人(24.4%)である。 χ^2 検定の結果($\chi^2(1) = 31.269, p < .01$), 人数分布に偏りがある。つまり、生徒が学級通信Dよりも学級通信Cの方を好きと感じていることから、学級通信Cは生徒が好きと感じる要素を有していると判断する。

3-4 自由記述のカテゴリー分析

質問紙1の「学級通信の異なると思った点をお答えください」という自由記述式の質問に対する回答をカテゴリー分析した結果は表3の通りである。カテゴリー分析では、文章の文脈を全く無視して単文化して、単文の数を度数として集計した。分類カテゴリーは大河原・荻間澤・佐々木(1997)の24カテゴリーを、筆者が独自に判断して概念の近いものをまとめて14カテゴリーに整理したものである。表3は、学級通信Cと学級通信Dにおける分類カテゴリーの度数とそれぞれの単文の総数に対する割合を表している。単文の数は学級通信Cが190である。学級通信Dが180である。単文の総数は370である。度数が10以下のものを1つにまとめて行った χ^2 検定の結果、学級通信C($\chi^2(7) = 42.758, p < .01$)と学級通信D($\chi^2(6) = 74.393, p < .01$)はともに有意であり、度数分布に偏りがあることが分かる。

学級通信Cに関して最も度数の高いのは「4:先生に関する記事を書いている」で47(24.7%)であり、次に「1-1:肯定的感情(好き,親しみやすい,優しい,良い)」が31(16.3%),「6:生徒中心(生徒主体,生徒を思っている,役に立つ)」が27(14.2%)の順である。つまり、学級通信Cでは教師に関する自己開示の記事が多い、生徒は肯定的な感情を持っている、生徒への教師の気遣いが感じられるといえる。

学級通信Dに関して最も度数の高いのは「2:否定的感情(コントロール,押しつけ,命令,注意)」で64(35.6%)であり、次に「7:教師・学校中心(先生の自分勝手,生徒

を不理解)」が26 (14.4%), 「3: 反発的感情 (嫌い, 反発, 反感, ムカツキ, 抵抗感)」と「9: 表現が強い (ポイントが分かる, ダイレクトに伝わる)」のそれぞれが20 (11.1%) の順である。つまり, 学級通信Dでは教師や学校が中心である, コントロールや命令が強く表現されている, 生徒が反発や反感を持っている, といえる。

表3 自由記述のカテゴリー分析の結果 (度数)

番号	単文の分類カテゴリー	学級通信A	学級通信B
1-1	肯定的感情 (好き, 親しみやすい, 優しい, 良い)	31 (16.3%)	11 (6.1%)
1-2	肯定的感情 (非否定的感情, 非反発感情)	15 (7.9%)	2 (1.1%)
2	否定的感情 (コントロール, 押しつけ, 命令, 注意)	4 (2.1%)	64 (35.6%)
3	反発的感情 (嫌い, 反発, 反感, ムカツキ, 抵抗感)	6 (3.2%)	20 (11.1%)
4	教師に関する記事を書いている	47 (24.7%)	1 (0.6%)
5	教師に関する記事を書いていない	0 (0.0%)	8 (4.4%)
6	生徒中心 (生徒主体, 生徒を思っている, 役に立つ)	27 (14.2%)	3 (1.7%)
7	教師・学校中心 (先生の自分勝手. 生徒を不理解)	13 (6.8%)	26 (14.4%)
8	表現が弱い (あいまい, 意味不明, 要点がない)	13 (6.8%)	2 (1.1%)
9	表現が強い (ポイントが分かる, ダイレクトに伝わる)	2 (1.1%)	20 (11.1%)
10	やる気がでる (やってみよう・がんばろうと思った)	8 (4.2%)	3 (1.7%)
11	教師に対する好感 (いい人, いい先生, 優しい性格)	8 (4.2%)	0 (0.0%)
12	学級通信の評価 (ありがち, 普段と同じ, 初めて)	1 (0.5%)	6 (3.3%)
13	その他	15 (7.9%)	14 (7.8%)
	計	190 (100%)	180 (100%)

3-5 評定尺度値の分析結果

図1は学級通信Cと学級通信Dの評定尺度値 (平均値) の分布を表している。Wilcoxonの符号順位検定 (両側) の結果, 質問項目1・2・3・4・5・8・10が有意水準1%で有意である。学級通信Cの方が学級通信Dよりも, 先生が自分の感情を素直に現していると生徒が思っていることが分かる。また, 先生が生徒を非難している, コントロールしようとしている, 急かしている, 問題を生徒の責任にしている, と生徒が思っていないことが分かる。さらに, 先生の私的な記事が多い, 保護者の考え方がわかる記事が多い, と生徒が思っていることが分かる。つまり, 「わたしメッセージ」で表現された学級通信Cが生徒に受け入れやすいことと, 学級通信における教師メッセージとして「わたしメッセージ」が効果的であることが分かる。

4 先行研究との比較

本実験の結果を荻間澤 (1997) の結果と比較する。荻間澤 (1997) の実験において, 学級通信A (あなたメッセージ) と学級通信B (わたしメッセージ) とを比較したときは, はじめに学級通信Aを提示して, 次に学級通信Bを提示した。すなわち, 提示順序はA→Bの順であった。今回はC→Dの順である。

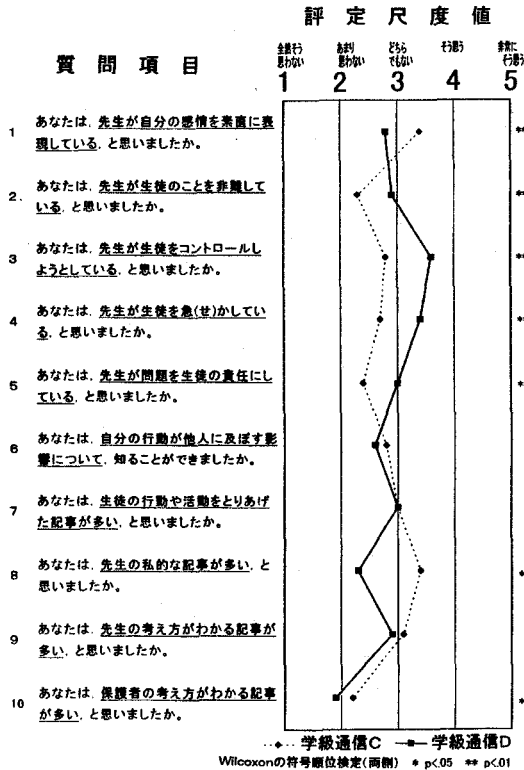


図1 学級通信Cと学級通信Dの評定尺度値(平均値)の分析

4-1 学級通信Bと学級通信Cの比較

学級通信Bと学級通信Cは、ともに「わたしメッセージ」で表現されている。図2は学級通信Bと学級通信Cの評定尺度値(平均値)の分布を表している。Wilcoxonの順位和検定(両側)の結果、質問項目1・2・3・4・5・8・9が有意水準1%で有意である。学級通信Bを学級通信Cと比較すると、学級通信Bの方が学級通信Cよりも、先生が自分の感情を素直に現していると生徒が思ったことが分かる。また、先生が生徒を非難している、コントロールしようとしている、急かしている、問題を生徒の責任にしている、と生徒が思わなかったことが分かる。さらに、先生の私的な記事が多い、先生の考え方がわかる記事が多い、と生徒が思ったことが分かる。質問項目6・7・10では有意差が認められない。

学級通信Bの評定尺度値(平均値)は学級通信Cよりも、「3:どちらでもない」からは離れた値をとっている。これは学級通信Bの前に「あなたメッセージ」の学級通信Aが提示されたことが影響していると考えられる。つまり、学級通信Bの評定尺度値(平均値)は、先行して実施した学級通信Aと比較されて回答されたために、比較対象のない学級通信Cよりも「3:どちらでもない」から離れた値をとったものと考えられる。しかるに、今回の実験では最初に学級通信Cが提示され、次いで学級通信Dが提示されたために、学級通信Cよりも先行して実施したものがなかったためである。

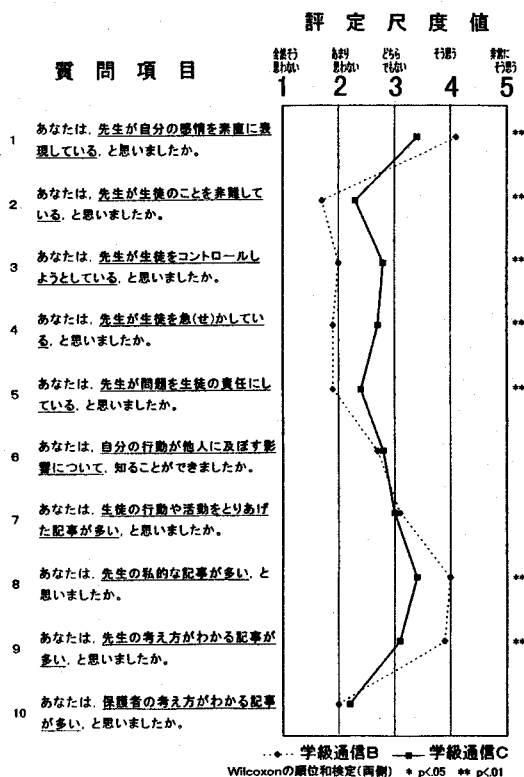


図2 学級通信Bと学級通信Cの評定尺度値(平均値)の分析

4-2 学級通信Aと学級通信Dの比較

学級通信Aと学級通信Dはともに、「あなたメッセージ」で表現されている。図3は学級通信Aと学級通信Dの評定尺度値(平均値)の分布を表している。Wilcoxonの順位和検定(両側)の結果、質問項目3・4が有意水準5%で、質問項目6・7が有意水準1%で有意である。学級通信Dを学級通信Aと比較すると、学級通信Dの方が学級通信Aよりも、生徒をコントロールしようとしている、急かしている、と生徒が思ったことが分かる。また、自分の行動が他人に及ぼす影響について知ることができた、生徒の行動や活動をとりあげた記事が多い、と生徒は思わなかったことが分かる。質問項目1・2・5・8・9・10では有意差が認められない。

学級通信Dの評定尺度値(平均値)は質問項目2・5・7・10を除いて、学級通信Aよりも、「3:どちらでもない」から離れた値をとっている。これは学級通信Dの前に「わたしメッセージ」の学級通信Cが提示されたことが影響していると考えられる。つまり、学級通信Dの評定尺度値(平均値)は、学級通信Cと比較されて回答されたために、比較対象のない学級通信Aよりも、「3:どちらでもない」から離れた値をとったものと考えられる。

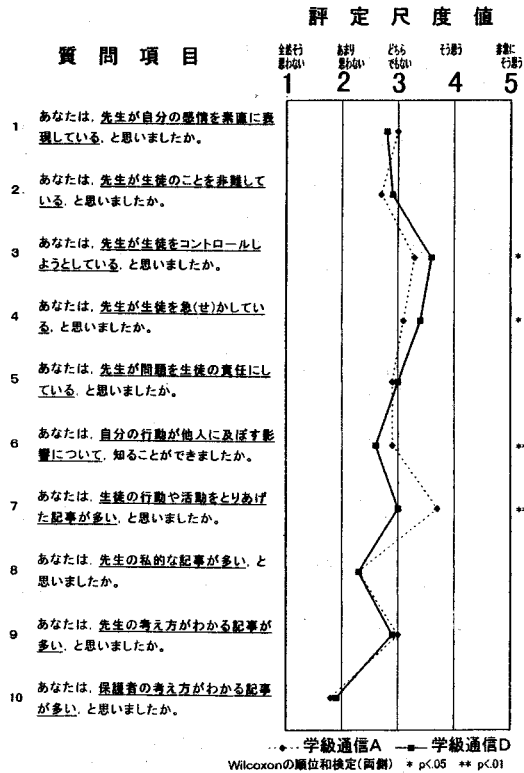


図3 学級通信Aと学級通信Dの評定尺度値(平均値)の分析

5 考 察

はじめに、2種類のメッセージの伝達内容とメッセージ表現について考察する。被験者の59.6%が学級通信Cと学級通信Dのメッセージの伝達内容が同一であると考えている。また、被験者の47.9%が作成者は異なると考えている。これらから、学級通信Cと学級通信Dはメッセージの伝達内容が一致しており、メッセージ表現が異なっていると生徒が判断したといえる。大河原・荻間澤・佐々木(1997)は、大学生を被験者にして、学級通信A(あなたメッセージ)と学級通信B(わたしメッセージ)のメッセージの伝達内容と作成者の一致度を調査している。被験者の79.6%がメッセージの伝達内容が同一と考えていること、被験者の50.0%が作成者は異なると考えていることを示している。これらから「わたしメッセージ」と「あなたメッセージ」で表現しても、被験者は伝達内容を同一であると判断することが確認された。

次に、学級通信における効果的な教師メッセージについて考察する。生徒の75.6%が学級通信Cを好きと回答していることから、学級通信Cは生徒が好感を持つメッセージ表現になっていると考えられる。加えて、自由記述から、学級通信Cでは教師に関する自己開示の記事が多いことが、生徒に肯定的な感情を持たせて、教師の生徒への気遣いを感じさ

せていると考えられる。さらに、学級通信Cの方が学級通信Dよりも、先生が自分の感情を素直に現している生徒が思っていること、先生が生徒を非難している、コントロールしようとしている、急かしている、問題を生徒の責任にしている、という感情が生徒に生起しないことが分かる。これらから、「わたしメッセージ」で表現された学級通信が生徒に受け入れやすいことと、学級通信における教師メッセージとして「わたしメッセージ」が効果的であることが分かる。

最後に、提示順序の変化による印象の違いについて考察する。学級通信を提示後、前のメッセージ表現とは異なるメッセージ表現の学級通信を提示すると（「あなたメッセージ」に続いて「わたしメッセージ」、「わたしメッセージ」に続いて「あなたメッセージ」）、後から提示する学級通信の評定尺度値（平均値）は影響を受けている。図2と図3から明らかのように、影響が小さいのは後から「あなたメッセージ」の学級通信を提示する場合であり、影響が大きいのは後から「わたしメッセージ」の学級通信を提示する場合である。これらから、生徒が「あなたメッセージ」に慣れているために、「あなたメッセージ」の学級通信では影響が小さくなり、「わたしメッセージ」では生徒が慣れていない表現であったために、生徒への影響が大きくなったのではないかと考えられる。つまり、学校で教師が発するメッセージは「あなたメッセージ」に近くなっているのではないかと考えられる。これは、自由記述のカテゴリー分析において、「12：学級通信の評価」に属する「学級通信Dはよくありがちな学級通信」「(学級通信Dは) 普段の学級通信」、「(学級通信Cは) 初めての学級通信」という回答があることから裏付けられる。

6 ま と め

学級通信Cと学級通信Dはメッセージの伝達内容は一致しており、メッセージ表現が異なっていることを確認できた。また、「わたしメッセージ」と「あなたメッセージ」で表現された学級通信の提示順序が変わっても、「わたしメッセージ」の学級通信が生徒に受け入れやすく、学級通信における教師メッセージとして「わたしメッセージ」が効果的であるといえた。これらの結果は、大河原・荻間澤・佐々木（1997）と荻間澤（1997）の研究結果を支持するものであった。

本研究から、学校で教師が発するメッセージはコントロール、注意・命令が中心となった「あなたメッセージ」が支配的であると考えられた。生徒の行動の変容を求めて教師メッセージを発する際に、生徒が「あなたメッセージ」の環境に置かれているほど、「わたしメッセージ」を使用することで教師が生徒に影響を与えることができると考えられる。

注：本論は第一著者荻間澤が全てを執筆したものである。第二著者大河原は、本研究紀要『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』「投稿規定」[6.3]により、研究指導とともに最終稿を閲読した。

引用・参考文献

- 荻間澤勇人 1996 学級通信の基礎的研究(1)：学級通信の歴史および発行状況 日本教育工学会研究報告集, 96-1, 33-41.
- 荻間澤勇人・大河原清・佐々木佳史 1996 学級通信記事における教師メッセージの分析 1996年日本教育工学会第12回大会講演論文集, 477-478.
- 荻間澤勇人 1997 学級通信記事における教師メッセージの研究：2種類のメッセージの提示を通して, 教育メディア研究, 3, 43-52.
- 近藤千恵 1993 「教師学」心の絆をつくる教育：教師のための人間関係講座 親業訓練協会
- 大河原清・荻間澤勇人・佐々木佳史 1997 学級通信記事における2種類のメッセージ表現に対する学習者の反応, 岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要, 7, 251-269.
- T.ゴードン／奥沢良雄・市川千秋・近藤千恵共訳 1985 T.E.T.教師学：効果的な教師＝生徒関係の確立 小学館

謝辞

調査にご協力いただきました岩手県立盛岡商業高等学校の村田勲校長と生徒のみなさんに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

平成10年1月20日発行

積極的に検定資格を取得しましょう

―― 在学中に、上級の資格取得を――

全商簿記検定が25日(日)に行われます。先生方の指導にもだんだん熱が入ってきました。先週から放課後に補習が行われており、みなさんの真剣に取り組む姿もみられるようになりました。しかし、中には「全くわかんない!」「勉強していないから、どうせ合格できない」「どうでもいいや」といったあきらめの声も聞かれます。努力をしないであきらめてしまうのはどうでしょうか。みなさんは、資格取得が目的で商業高校に入学してきたのですから、より上級の資格をとって卒業することは大切なことなのです。

また、みなさんの多くは、卒業後、企業に就職します。企業は、商業高校の出身のみなさんを、即戦力として期待して、採用しました。即戦力とは、業務に必要な知識を検定資格によって習得していることを意味します。ですから、みなさんは、各種の検定で上級をとって力を付けなければなりません。「もう、内定をもらったからいいや」ではなく、内定をもらったということを「即戦力として、期待されている」という意味で受け取り、全商簿記検定や商業経済検定で1級をとるようにがんばってください。

業務に必要な知識、たとえば簿記などは、もちろん、社会人になってから勉強をすることも可能ですが、費用と時間がかかります。また独学で勉強することも可能ですが、先生から聞いて学習する方が、わかりやすく効率もいいはずですよ。ですから、みなさんは、今のうちにより上級の検定試験をとることが大切です。

先生方は、以上のようなことを考えて、先週から放課後に補習をしてくださっています。先生方を信頼して、補習についていくようにしましょう。がんばれば、その分は必ず成果が得られます。今からでも遅くはありません。がんばりましょう。

「知識や技術を身につけることは、今後の自分の人生を豊かにすることであり、自分を愛えていくことである」ということです。2月4日(水)からは学年末考査も始まります。自分の人生を豊かにするために、さあ今から、精一杯努力しましょう。

県立盛岡商業高校3年

青雲

内定後の生活について

―― 社会人としてルールとマナーを! ――

1月も中旬になり、採用試験を受け、就職が内定した生徒が多くなりました。とてもうれしいことです。しかし、気がかりなことがあります。それは、例年、内定後に、あまり好ましくない行動をする生徒が現れることです。普段から生活の大切さを話していますが、これからが大切な時期なので、もう一度注意します。

採用が内定したということは、100%、採用が決まったということではありません。今後、あなたが高校生として、あるいは、盛商生としてふさわしくない行動をとった時には、就職採用の内定が取消になることもあります。以下に、今後守ってもらいたいことをあげますので、十分注意してください。

- ① すでにあなたの身の半分は企業のもので、自己を鍛えることはみなさんに課された仕事と同じです。今からその努力を怠るようでは社会人として、企業人として失格です。企業によっては、ペン字の練習帳や自己啓発に関する本が送られてきます。それは、ある意味では、企業人としての教育が始まったことを意味しています。すでに企業の一員であるという自覚を持って、研修に取り組みましょう。
- ② 11月から自動車学校に通っている生徒がいます。冬季休業を使い、学年末前に免許を取るとがんばった人もいでしょう。在学中に習得した免許証は、卒業式当日まで、学校に預けることになっています。これは在学中の事故をなくすためです。すでに免許を習得した人は、速やかに提出してください。
- ③ 内定をもらったからといって、スカートを短くしたり、パーマや極度のカールをかけ、平気でルールを無視するようでは困ります。そのようなことでは、社会人として失格です。服装や頭髮がみだれないように注意しましょう。
- ④ 何よりも、残りわずかな高校生活をより一層充実したものするように、努力することが必要です。精一杯がんばりましょう。

平成10年1月20日発行

自分のために資格取得を!

全商簿記検定が25日(日)に行われます。みなさんから、「就職も内定したしあまり勉強もしていないから受けたくない」という声を聞きました。また、先日、男子生徒に「簿記の勉強してる?」と聞いたところ、「ちょっとだけやってる」と言っていました。みなさんは盛商に入学後、商業科目に関するたくさんの資格検定に挑み、それらを習得してきました。しかし、3年生の今の時期になって、資格をとるための勉強にあきた、という態度がみられます。それと、自分の本心には、資格をとりたいという思いがあるのですが、先生方があまりにも熱心で、「やらせられている」という感じがして、抵抗している生徒もみられます。

私は、勉強に関する資格はないのですが、①危険物、②火薬取扱責任者、③珠算2級、④普通3段、⑤アマチュア無線などの資格を持っています。①と②は就職の際に有利になると思い、大学生のときにとりました。③は親に無理矢理やらせられました。④は盛商に勤務してから、きれいな字が書きたいと思って始めました。今年で7年目になります。字がうまくなるのもうれしいのですが、筆を持つと心が落ち着き、疲れがとれるので、現在でも続けています。⑤は同僚の先生にさそわれて資格をとりました。以上いろいろな動機があったのですが、自分が資格にチャレンジし努力の結果、その資格が取れたときは、成就感があり、とてもうれしかったです。とくにむずかしいものほど、そのような感じを持ちました。私の場合は、火薬取扱責任者の資格をとるときがとても大変でした。専門的な用語が多く、意味が分からないうえに、準備期間も短かったからです。不明な用語をひたすら暗記して受験しました。合格率20%前後のときに合格できたときはとてもうれしかったです。その資格をとってよかったと思うことは、むずかしい資格を取れたことが自信となり、新たな資格にチャレンジする気持ちを持たせてくれた、ということです。

先週から、放課後に補習がおこなわれます。先生方の指導にもだんだん熱が入ってきました。私は簿記を教えることができないので、みなさんには「がんばれ!」としかいえません。今の時期に、検定資格をとることの意味は私には分かりません。しかし、検定資格をとった後にその意味が出てくるのだと思います。

精一杯、がんばって欲しいと願っています。



青雲

県立盛岡商業高校3年

有意義な生活を

—— これからの自分を考える時期に! ——

1月も中旬になりました。「今年の就職は厳しい」と言われながらも、多数の生徒が就職の内定をいただきました。みなさんのこれまでの努力が実って、就職先が決まったことを、私はとてもうれしく思っています。本当によかったですね。

これから採用試験を受ける生徒や進学を希望している生徒は、自分が希望する職種の求人があるか、採用試験はむずかしくないか、あるいは推薦試験の面接をどうするか、小論文をどうするか、このまま進路が決まらないうちに卒業式がきてしまうのではないかなど不安でいっぱいだと思います。私も教員採用試験のときに、最終的な採用決定の通知が3月10日に届くまでは、このまま採用にならないのではないか、という不安な気持ちで毎日過ごした経験があります。

さて、これからの時期に心配なことがあります。それは、内定後に好ましくない行動を取り、内定が取り消しになる生徒がいるのではないか、ということです。生徒も、保護者も、もちろん教師も、就職という大きな目標をクリアし、「ホッ」と一息つきたくります。そして、みなさんは息苦しかった雰囲気から解放されるような感覚を持つと思います。そんなときに、ちょっとした油断が生まれます。その油断が大きな事故につながる場合があります。私の教え子に、自動車免許を取得した後、友達とドライブに出かけ、スピードの出しすぎと運転技術の未熟さから、事故を起こして、複雑骨折で6ヶ月間入院したため、内定していた就職先に就けなかった生徒がいました。希望する調理の職種に内定して、社会人になるのをとても楽しみにしている生徒でしたから、そのときは本当に辛く悲しかっただろうと思います。もちろん私も残念でなりませんでした。

ですから、みなさんには、ちょっとした油断で、自分が手にした大切な進路を失って、悲しんで欲しくありません。楽しい人生を作っていくのは、これからです。私にできることは、みなさんの行動に油断がないように、そして、残り少ない高校生活が有意義な日々であるように折ることだけです。